



市民病院は「命を守る最後の砦」！ 最大限の努力をし、市民病院・坂下病院を守ります！！

市民病院にお医者さんは来てくれるの？

- ・名古屋大学医学部を何度も訪問し医師派遣の協力を要請しています。
- ・すでに昨年10月、3名の医師（うち1名内科医）が赴任しました。

H23年4月より新しく内科医5名の赴任が決定！！

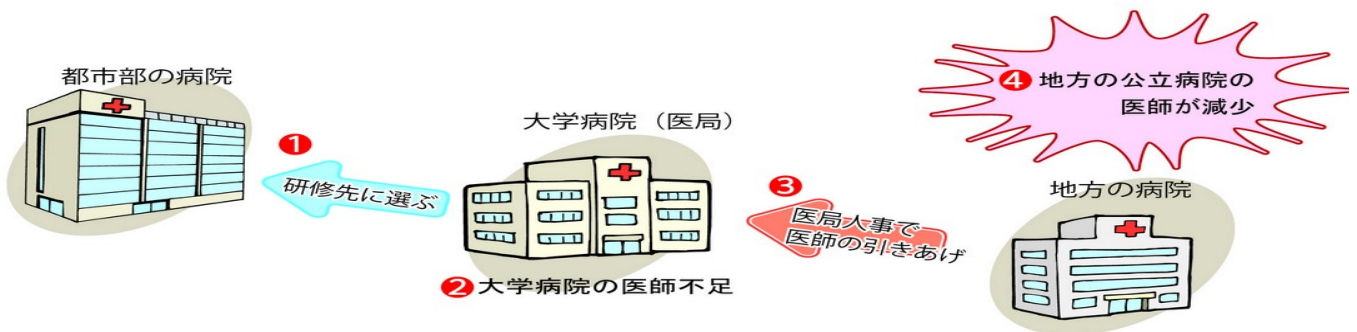
内訳 腎臓内科医2名、総合内科専門医1名、消化器内科医1名、神経内科医1名

- ・このほか医師・看護師確保として①確保奨学資金の貸付、②手当ての見直し、③住居環境の支援、④研修医に魅力ある病院づくりに努めています
- ・医師、看護師確保には約1億6千万円をあてています。

どうしてお医者さんがいなくなったの？

研修医制度の変更により、地方の医師不足

- ・「研修医制度」の変更により
 - ①研修医が都市部の病院に集中。
 - ②大学病院は医師不足となり、
 - ③地方の公立病院に派遣している医師を大学病院に引き揚げたため、
 - ④地方の公立病院で医師が不足し、市民病院、坂下病院ともに医師不足となっています。



公立病院の経営は大丈夫？

改革プランを実施しますが、必要に応じて税金を投入して守ります

- ・経営改善に取り組み平成25年度に経常収支の黒字化を目指します。
- ・高度医療、救急医療を担い、採算性が低いため、税金を投入してでも確実に守ります。ちなみに平成22年度市民病院には約7億円を投入しています。

市民病院と坂下病院の役割は

公立病院は、不採算な高度医療と地域医療を担う

- ・市民病院と坂下病院の役割分担を明確にし、連携します。

市民病院は東濃東部の中核病院

- ・急性期（手術・高度検査・専門治療）や救急医療の提供など専門性の高い医療を担う病院です。

坂下病院は市内東部と木曽南部の地域拠点病院

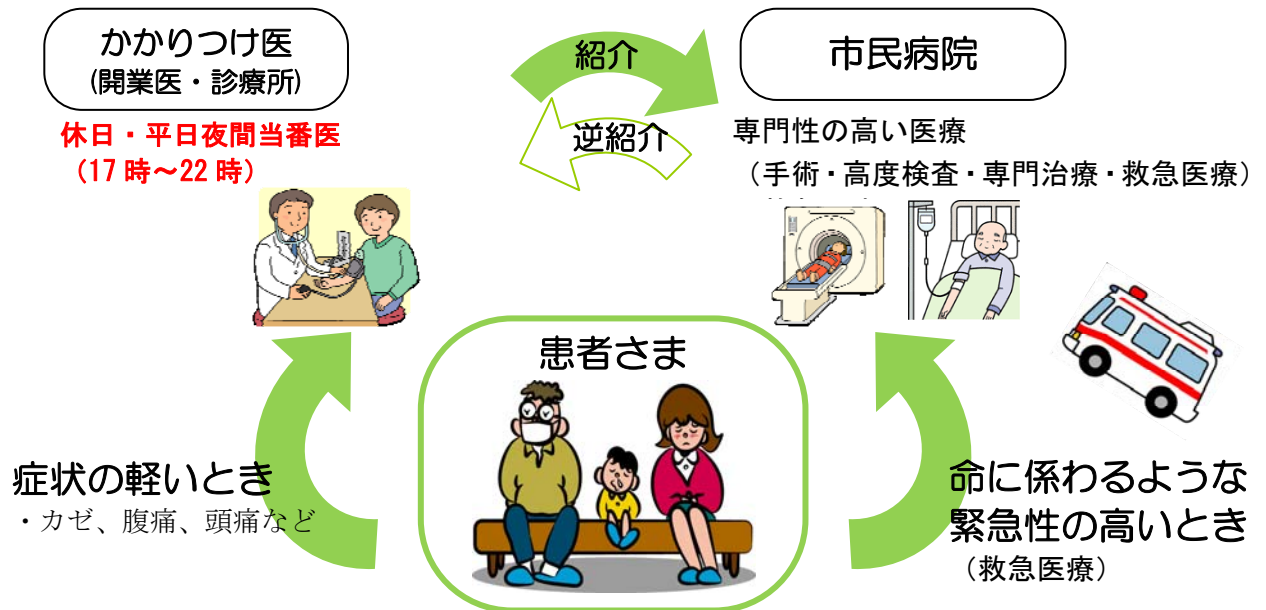
- ・地域に必要な一般診察、身近な救急医療を担うとともに慢性期にある患者様の医療を担う病院です。



どうやって市民病院の内科にかかるの？

- ・内科医師が減少し、今までどおりの診療方式では内科医に疲労が蓄積し、本来の役割である専門性の高い医療ができなくなります。
- ・そこで、内科では医師の負担軽減のため、下図のように初診外来を休止していますので、ご協力をお願いいたします。(内科以外は、初診から受診できます)

- ・カゼ、腹痛、頭痛など症状の軽いときは、かかりつけ医の受診を
(市民病院は、かかりつけ医の紹介で受診を)
- ・命に係わるような緊急性の高いときは、市民病院の受診を
(救急車か、自分で連絡して受診を)



～上図は内科の診療方式です～
(内科以外は、初診から受診できます)

市民病院の産科はどうなっているの？

3名の産婦人科医師で手一杯です
やむなく里帰り出産をお断りしています

- ・産科医師は、市民病院3名、開業医1名のわずか4名で、中津川市・恵那市を担っています。
- ・市民病院では、3名の産婦人科医師で1日平均約1.4名のお産を対応するとともに、市内産科医院で異常分娩時には医師を派遣しています。
- ・助産師外来の実施で医師の負担軽減を行なっていますが、医師は1日約50名前後の診察を行っており、お産と合わせて24時間365日フル稼働で限界の状況です。

中津川市のこれからの医療は？

予防から介護までの地域包括ケアを推進します

- ・4月より名古屋大学医学部総合診療科から派遣していただいた総合医のもとで
 - ① 市民病院に総合診療科を開設し、かかりつけ医からの紹介の窓口機能を担う。
 - ② 開業医のない地区の公立診療所への医師派遣を実施します。
- ・将来的には
 - ③ 医療知識をベースに、保健、医療、介護を連携させた一体的なサービス(地域包括ケア)を提供します。

お問い合わせ先

病院事業部
医事課・地域医療連携室

☎ 0573-66-1251
✉ nmgh@city.nakatsugawa.gifu.jp